

日野市立教育センター所報

教育センターだより

第30号 平成25年6月26日発行



平成25年4月19日
わかば教室 春の遠足 多摩動物公園

日野市立教育センター

〒191-0042

日野市程久保550

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

開館時間 午前8時30分
～午後5時15分



10年目を迎え、より役立つ教育センターへ

所長 松澤 茂久

加島 俊雄前所長の後を受け、4月に第3代所長として着任いたしました。私は教諭・管理職として教職生活の半数の年を日野市で勤務しましたが、平成11年に武蔵野市に異動し、退職後も同市の教育支援センターに居りましたので、日野は実に久しぶりとなります。この間、日野市や諸先輩の果たされてきた実績の重みをしっかり受け止めると共に、もう一度新しい目で日野を見つめ職務を全うしたいと存じますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、教育センターは今年で開所10年を迎えます。これまでセンターの果たしてきた役割や活動の成果を踏まえるとともに、日野市の新たな教育課題に配慮し、今後とも当センターが「教育のまち日野」の一翼を担って着実に歩み続けるよう努力する所存です。平成25年度も以下の3事業を実施し、より充実した活動となりますよう所員一同力を合わせてまいりますので、ご支援をよろしくお願いいたします。

「調査研究」では、日野教育のシンクタンク的な役割を期待されております。本年度も、学校現場や関係機関等と連携しつつ、よりよい授業実践や教材開発ができるよう、「理科教育」、「郷土教育」の研究に継続して取り組みます。また、「ひのっ子教育21開発委員会」の研究(今年度は社会科、理科の魅力ある授業づくり)を補佐し、各学校の活発な校内研究と相まって、「授業研究の日野」を支え、推進します。

「教員研修」では、教育センターの専門スタッフの力を活かして、年々増加する若手教員について実際の授業に即した個別指導を行い、授業力向上の力添えをします。昨年度まとめた「授業観察のためのガイドライン」に沿って学校と共通認識で指導に当たります。また、教育委員会が実施する教員研修が円滑に実施できるように協力していきます。

「教育相談」は、一般教育相談と「わかば教室」に分かれます。前者では電話相談、来所相談等により、悩み・課題を抱える子どもたちを専門相談員が親身になって支えていきます。後者のわかば教室では、不登校の子どもたちの学ぶ場としてeラーニングを含め、子どもたちの実情に即して学習や進路等を一緒に考え支援していきます。また、登校支援コーディネータの定着を図ると共に、来年度開設予定の「発達支援センター」と相談の在り方を検討します。

教育センターの事業内容については、webサイトでの紹介に加え、「教育センターだより」、「教育センター紀要」、「郷土日野指導事例」などの刊行物も発行していますので、ご一読いただければ幸いです。また、市内の研究校の研究紀要なども電子ファイル化して公開していますのでご活用ください。事業内容の詳細については教育委員会、教育センターにお問い合わせ下されば、ご案内いたします。

I 調査研究部

調査研究部では、日野市の当面する教育課題である「理科教育推進の研究」「郷土教育推進の研究」の推進、日野市教育委員会事業「ひのっ子教育21開発委員会研究」の支援を関係機関のご協力の下、進めています。以下、年間計画のあらましをお知らせします。

1 理科教育推進の研究（理科教育推進研究委員会）

教科等教育係

ひのっ子の意欲を高める理科授業を目指して

研究テーマを「ひのっ子の意欲を高める理科教育の展開」とし、子どもが意欲を持って理科の授業に取り組む姿を目指して、学校・教員をサポートする「理科支援センター」の在り方について実践研究します。また、理科における各種研究活動の支援・協力や諸機関との連携を通して日野の自然の教材化を推進します。

（1）研究の目的

- ①学校・教員が行う理科教育への「理科支援センター」としての支援の在り方を明確にする。
 - ・理科学習における学校や教員への支援
 - ・理科実験室の整備と充実
 - ・デジタル教材等、ICTを活用した授業の推進
 - ・理科に関する情報の発信
 - ・ひのっ子教育21開発委員会理科分科会や理数フロンティア校、小・中教研との連携
- ②理科に関する教員の、指導力向上のための研修を充実させる。
 - ・コア・サイエンス・ティーチャー（CST）による実技研修
 - ・外部の諸機関を活用した研修
 - ・コア・サイエンス・ティーチャーを活用した小学校理科実技研修会（CST講座）
- ③日野の自然の教材化を進め、授業実践への普及に努める。
 - ・日野の自然の掘り起こしと教材化の推進
 - ・授業実践を通しての各学校への普及と活用の推進
 - ・外部の諸機関等との連携

（2）研究の方法

- ①学校や教員の理科学習を支援するための「理科支援センター」の在り方を検討する。
- ②教員の授業力向上を目指し、充実した研修の実施について検討する。
- ③諸機関と連携し、日野の自然の教材化について検討する。

（3）組織・運営

委員長・副委員長：小・中学校の校長会代表者

委員：小・中学校副校長会代表者、理科教育の有識者、元 CST 専属理科支援員、CST、理数フロンティア校担当者、小・中教研理科部長、指導主事、教育センター所員

（4）活動日程

- ①理科教育推進研究委員会・・・年間5回を予定
- ②研修会等

6月12日(水)午後：小・中連携の理科授業(小学校の授業)
7月30日(火)全日：理科実技研修・富士電機株式会社
8月2日(金)全日：理科実技研修(午前・小学校教諭対象の初任研)
8月23日(金)全日：昆虫スキルアップ研修・多摩動物公園
9月11日(水)午後：小・中連携の理科授業(中学校の授業)
12月26日(木)午前：「電気の利用」研修会 日本電機工業会・教育センター
CSTを活用した小学校理科実技研修会（CST講座）：月1回実施
自作教材作り研修会：夏季休業中に実施

2 郷土教育推進研究委員会(郷土教育推進研究委員会)

ふるさと教育係

～日野の歴史・自然・文化・産業・人を授業で活用する～

日野市は「緑と清流のまち 日野」「新選組のふるさと 日野」「芸術・文化の薫るまち 日野」「教育のまち 日野」等のキャッチフレーズがあります。このキャッチフレーズは、豊かな歴史・自然・文化、そして人材に恵まれた日野市の特色を的確に表現しています。この日野で生まれ育ったことを自信と誇りにできる日野を愛する「ひのっ子」を育成し、将来の日野を背負って立つ「日野人」の育成へとつなげていくことが「教育の町 日野」の大きな課題となっています。

郷土教育推進研究委員会では、以上の課題を受けて、郷土の特色やよさを知り、郷土に対する誇りと愛着をもった「ひのっ子」の育成に取り組んでいます。研究の成果を毎年、「郷土日野」指導事例集としてまとめ発行しています。現在第8集まで発行しています。日野市立教育センターのホームページで見られますので、是非一度開いて下さい。今後、郷土教材が、ますます幼稚園、小・中学校の授業に活かされるとともに、家庭でも教材とした地域を訪ね、家族で日野のよさを再発見していただけることを心より願っています。

さらに今年度は、日野市制施行50周年・新選組結成150周年・日野の教育140周年・東京府(多摩)移管120周年等日野市にとって節目の年です。私達は、「役に立つ郷土教育」「やりがいのある郷土教育」を合言葉に、皆様の期待に沿えるようさらに努力いたします。

(1) 目的

- ①郷土日野の歴史・自然・文化・産業・人に親しみ、郷土の特色やよさを知り、郷土に対する誇りと愛着をもった「ひのっ子」を育成する。
- ②「郷土日野」指導事例第9集を作成し、その成果を各幼稚園・小・中学校や各博物館・図書館等の関係機関で積極的に活用されるよう普及・啓発活動を進める。
- ③教職員対象の研修会で郷土のフィールドワークや実践事例の発表会を実施し、郷土教育を実践できる指導力ある教員を育成する。

(2) 内容・方法

- ①日々の授業で活用できる郷土教材を収集・開発する。
- ②各幼稚園・小・中学校で実践できる指導計画を作成し授業実践を行う。
- ③教職員対象のフィールドワークや実践事例発表会を開催する。
- ④以上の実践は、博物館・図書館・公民館等生涯学習関係機関と連携・協力して行う。
- ⑤郷土教材や実践事例を「郷土日野」指導事例第9集にまとめる。
- ⑥「郷土日野」指導事例第9集を電子データ(PDF)化し、ホームページに掲載する。

(3) 組織・運営

○委員長 日野第一小学校長 中島和夫

○副委員長 日野第二小学校副校長 秋田克己

○委員 学識経験者 會田 満 学識経験者 吉野美智子

第三幼稚園 富尾真須子 第四幼稚園 石川星子 日野第一小学校 馬鳥 誠、

日野第二小学校 松本美代子 潤徳小学校 入野祐子 日野第八小学校 重末祐介

七生緑小学校 小坂克信 郷土資料館 中山弘樹

新選組のふるさと歴史館 金野啓史 中央図書館 星まゆみ

○事務局 市教委指導主事 加藤ユカ 教育センター所員 小杉博司

(計16名)

3 ひのっ子教育 2 1 開発委員会研究

基礎調査研究係

日野市教育委員会は、日野市における学校教育の振興を図る施策の1つとして「ひのっ子教育 2 1 開発委員会」を設置しています。小・中学校から開発委員が集まり、教科・領域等の教育内容・教育方法の実践的研究を行っています。昨年度は、「国語科、算数・数学科における魅力ある授業作り」を全体の研究テーマとし、小・中学校から開発委員が集まり、ひのっ子が育つ魅力ある授業の創造を追究し実践してきました。

学習指導要領では、生きる力を育むために、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成、言語活動の充実を求めています。この趣旨を受けて、日野市教育委員会では平成25年度主要事業、第4項目「時代の要請に応える力の育成」の達成のために、ひのっ子教育 2 1 開発委員会の研究内容を、ひのっ子の学習意欲の向上と基礎的・基本的な知識・技能の定着・思考力・判断力・表現力等を育成する魅力ある授業づくりを目指し、よりよい授業モデルを提案することとしました。今年度は、教科を社会科、理科にしぼり、全体のテーマを「社会科、理科における魅力ある授業づくり」とし、ひのっ子が育つ魅力ある授業の創造を追究し、その開発・研究に取り組みます。

(1) 運営方針

平成25年度日野市立教育センター事業内容にある魅力ある授業作りプロジェクトについて市内の小・中学校から開発委員が集まり、研究グループを編成し、社会科、理科における魅力ある授業モデルの開発・研究に取り組む。

(2) 研究の内容及び方法

①内容 社会科分科会の研究テーマ

理科分科会の研究テーマ

②方法 日野市内の小・中学校から選ばれた1名の開発委員を社会科と理科の2つの分科会に分け、分科会ごとに開発・研究を進める。

社会科 小学校9名 中学校4名

理科 小学校8名 中学校4名

③計画 一学期 講師の指導による「魅力ある授業づくり」の理念や現状と課題についての学習をする。模範授業を行い魅力ある授業のイメージをつかむ。

二学期 講師を招聘しブロック提案による研究授業・協議会、発表会に向けて

三学期 発表会に向けて準備、研究のまとめ、公開授業

(3) 委員会組織

学識経験者	社会科	聖徳大学	教授	廣嶋	憲一郎	先生
	理科	東京大学大学院	特任教授	日置	光久	先生
		帝京大学	教授	星野	昌治	先生
小・中学校長会	各1名	小・中学校副校長会	各1名			
小学校	各校1名	中学校 英語科教諭	各校1名			
担当指導主事	2名	教育センター所員(庶務)	2名			計33名

平成25年度 ひのっ子教育21開発委員会（社会科・理科部会） 年間計画

月	日	曜	種別	内容
4月	26日	金	全体会	委員、担当者自己紹介 今年度の研究推進の方針説明
			分科会	分科会リーダー・サブリーダー選出 研究テーマ検討 研究授業担当分担・日程調整
5月	28日	火	社会科部会	① 講演「社会科における魅力的な授業とは」 講師 聖徳大学 教授 廣嶋 憲一郎 先生 ② 協議 研究テーマ、授業者、研究授業日程調整
			理科部会	協議 研究テーマ、授業者、年間スケジュール
6月	27日	木	社会科部会	① 模範授業 夢が丘小学校5年2組 神野 幸隆 先生 ② 協議
			理科部会	① 講演「今後の理科教育に求められるもの」 講師 東京大学特任教授 日置 光正 先生 ② 協議
7月	8日	月	社会科・理科	① 提案・グループ協議 ② 授業研究にむけて
9月	19日	木	社会科・理科	① 授業研究・講師 ② 協議
10月	21日	月	社会科・理科	① 授業研究・講師 ② 協議
11月	14日	木	社会科・理科	① 授業研究・講師 ② 協議
12月	5日	木	社会科・理科	① 研究の概要（原稿検討） ② 各グループの実践（原稿検討）
1月	20日	月	社会科・理科	① 研究のまとめ ② 研究発表会にむけて
2月	14日	金	社会科・理科	研究発表会(会場：平山小学校) ① 研究授業 ② 講演会(社会科・理科)

Ⅱ 研修部

1 教員の研修

教職員研修係

研修係担当所員は、「研修部」（専任４名）、「調査研究部」「相談部」（兼任６名）の計１０名です。

（１）若手教員育成のための授業指導

若手教員育成のため、研修部所員が学校訪問を行ったり、グループ指導を行ったりします。また、担当者は、平成２４年度に作成された研修ガイドラインに基づき、指導・助言を行い若手教員の悩みにも応えられるように努めています。これによって、日野市の教員の資質向上に大きく貢献して行きます。

①若手教員育成研修（１年次）（小学校 ２１名、中学校 １５名 計３６名）

学校訪問を年間３回行い、授業観察した後、授業の進め方について気づいたことなどを個別的に指導・助言をしています。学校の要請に応じて回数を増やすこともあります。

②若手教員育成研修（２年次）（小学校 ２２名、中学校 １９名 計４１名）

各学校で年間３回行う研究授業の中の１回を担当し、授業の進め方について気づいたことなどを個別的に指導・助言をしています。

③若手教員育成研修（３年次）（小学校 ２５名、中学校 ５名 計３０名）

年間１回学校訪問し、授業観察をした後、授業の進め方について気づいたことなどを個別的に指導・助言をしています。

④２年次・３年次研修会

８月２７日(火)に、日野第一中学校で行われる予定です。この研修会では、参加教員が１学期に実践した授業実践をDVDビデオ等で報告し、改善すべき課題を見つけ自らの授業改善につなげていき、魅力ある授業作りに努めています。担当所員は、研修会の指導・助言を行うと共に、若手教員が気軽に声をかけられるような関係を作り、悩みにも応えられるように努めています。

（２）教育委員会主催研修会への協力

研修係専任所員は、教育委員会が主催する次の研修会の会場設営や受付等を行います。

①職層に応じた研修

- ・学校組織マネジメントⅠ（校長）
- ・学校組織マネジメントⅡ（副校長）
- ・学校組織マネジメントⅢ（主幹）

②現職経験に応じた研修

- ・若手教員育成研修（１年次）
- ・若手教員育成研修（２年次）
- ・若手教員育成研修（３年次）
- ・１０年次研修

③教育課題研修

- ・道徳教育推進
- ・人権教育理解推進
- ・食育リーダー
- ・ＩＣＴ活用推進
- ・特別支援教育
- ・リソースルーム
- ・体力向上推進
- ・幼・保・小連携教育等

④特別課題研修

- ・理科実技研修
- ・昆虫スキルアップ研修
- ・郷土教育研修
- ・夏季ＩＣＴ活用研修
- ・小学校外国語活動研修
- ・幼児教育研修

⑤教科専門研修（全体会）

夏季休業中に市民会館で開催される教科専門研修（小・中学校の全教員対象）の「受講受付」「当日の受付業務」「会場案内」「プレゼンテーション機器・音響設備設置」などの運営補助を研修部全員で行っていきます。



一年次若手教員育成研修【マナー研修等】

Ⅲ 相談部

日野市立教育センターの相談部には、一般教育相談係と適応指導（わかば）教室運営などを行う学校生活相談係が設けられていて、教育相談事業を行っています。

1 一般教育相談

一般教育相談係

一般教育相談係は、日野市に在住する幼児・児童・生徒の不登校やいじめ、その他の学校生活や家庭生活上の課題について、本人及び保護者や市民、教職員等からの電話や来室による教育相談に応じ、解決のための援助を行っています。

また、日野市の幼稚園・保育園・小学校・中学校や教育委員会等と連携を図り、教育相談の普及・浸透、研究・研修の推進、相談関係の施策等への協力に努めています。

（１）教育相談の実施

- ・ 知能・学業・性格・身体・性癖・進路・適性等に関する相談
- ・ 幼児・児童・生徒の生活指導についての指導・助言
- ・ 市内公立幼稚園・保育園、小学校、中学校等における学校教育相談との連携
- ・ 心身に障害のある幼児・児童・生徒の就学（園）相談への協力

（２）教育相談の外部諸機関や諸団体との連絡・情報交換

（３）研究・研修などの教育相談活動の充実に関すること

（４）センターだより、センター紀要の執筆、相談部紀要の発行

（５）学校生活相談係（適応指導教室「わかば教室」）との連携

相談方法

（１）電話による相談

①電話相談（☎０４２－５９２－１１６０）

教育相談全般に応じます。

②子どもこころの電話相談（いじめ相談）（☎０４２－５９２－２７８２）

幼児、児童、生徒、保護者、学校関係者からの相談に応じます。

（２）来室相談（予約制）

電話で日時を調整したうえで、面談や箱庭・コラージュ・プレイセラピーなど、相談者に応じた方法で相談を行います。また、相談の中で諸検査を行うこともあります。

相談時間

月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く）

午前１０時～午後５時まで

相談体制

相談員（臨床心理士）６名が曜日担当制で相談にあたり、嘱託員１名が相談室運営にあたっています。

月・金曜日 相談員２名

火曜日 相談員３名

水曜日 相談員４名

木曜日 相談員６名



2 学校生活相談

学校生活相談係・わかば教室

学校生活相談係は、学校生活における精神的な悩み、人間関係での不安、不登校や登校しぶり等、児童・生徒の環境をめぐる問題に関しての相談や支援、健全育成に関する資料提供や助言を行っています。具体的な活動は次の通りです。

(1) 相談活動

学校生活上の問題や不登校に関する相談、適応指導教室「わかば教室」に入室している児童・生徒への計画的継続的な個別面談。

(2) 「わかば教室」通室児童・生徒への指導・支援

「安心して過ごせる学びの場」づくり、学校復帰、社会的自立への援助。

(3) 登校支援

学校訪問、不登校児童・生徒の早期発見と初期対応・予防、早期解決の推進、ひきこもり傾向の児童・生徒への働きかけ。

(4) 学校・家庭・地域との連携

適応指導教室連絡会、活動状況報告の送付、保護者面談・保護者会・授業参観、通信、地域ネットワーク連絡会、スクールカウンセラー連絡会、地域を生かした体験活動。

教育センター所員5名、カウンセラー2名（週5日分）、指導員4名の11名のスタッフで気持ちを新たに、業務に当たっています。「わかば教室」の学習・生活全般にわたって、学生ボランティアの協力があります。教育センター3階が学校生活相談係のフロアです。

適応指導教室「わかば教室」（連絡先 ☎ 042-592-0863 FAX 042-592-1148）

「わかば教室」では、不登校や登校をしぶる児童・生徒の支援をします。具体的には、「わかば教室」に通う子どもたちが安心して過ごせる学びの場にするため、「おだやかに・のびやかに・ゆるやかに」をモットーに努めています。そのうえで好ましい人間関係、集団への適応能力、体力、学習への意欲、基礎学力、社会性や自立心の育成を目指し、個々の状況に応じて、個別あるいは少人数による指導・支援・相談をしています。

※入室を希望される方、内容を知りたい方はお気軽にご相談ください。



お茶会 つくばい

◇「わかば教室」の一日

朝の会で始まり、学習タイム(国・社・算/数・理・英・eラーニングを中心に個に応じた学習指導)、わかばタイム(曜日毎に、栽培・図工・音楽・スポーツ・作文を実施)、ミーティング、個別面接(計画的・継続的なカウンセリング)の日程を組んで実施し、帰りの会で終わります。週1回はスタッフ全員の話し合いの時間を設け、子ども一人ひとりの状況に応じた個別計画で指導・支援に当たっています。ふれあいを大切にし、特に昼休みは、毎日元気にスポーツを楽しんでいます。

◇「わかば教室」の行事

遠足、お茶会、誕生日会、スポーツ大会、収穫祭、夏休みの通室日および補習、地域の奉仕活動(老人ホーム訪問等)、社会科見学、図書館訪問、音楽鑑賞教室、音楽会、書初め、卒業・進級を祝う会等感動体験の重視、自らの良さや存在の大切さへの気づきの学習、定期的に行うカウンセリングで情緒を安定させ、子どもたちに自信を取り戻させています。

不登校児童・生徒への学習支援：e-ラーニングを実施しています

1 “わかば教室”の児童・生徒を対象としたe-ラーニング

わかば教室に通室している児童・生徒に対して、わかば教室で学習できる機会を利用し、児童・生徒の学習支援や学校復帰へのきっかけを促しています。

わかば教室では、一人一人のニーズにあった学習支援を二名の担当者が行っています。

固定学習日 月曜日：学習タイム1→中学生、学習タイム2→小学生

水曜日：学習タイム1→小学生、学習タイム2→中学生

☆ “わかば教室”見学の児童・生徒を対象としたe-ラーニング

わかば教室見学者は、固定学習日にe-ラーニング体験学習をすることが可能です。事前に曜日と時間をわかば教室に確認をしてください。

＊学習方法の支援と学習相談もいたします。

2 「在宅(家庭)」の児童・生徒を対象としたe-ラーニング

さまざまな理由から学校に登校できないなど、長期間の欠席状況にある、またはそのような傾向にある児童・生徒に対して、日野市e-ラーニング「ひのっ子学習システム」利用の手引きに基づいて、家庭（自宅のコンピュータを使用し、システム利用が可能であること）で学習できる機会を提供し、児童・生徒の学習支援や課題解決への支援を行っています。

登校支援コーディネータ

不登校状態にある児童・生徒の豊かな育成を目指し、学校やわかば教室、関係機関と連携を進め、学校復帰や次の成長につながる支援を行います。

- ・学校の支援(学校訪問・相談・助言・ケース会議等)
- ・不登校実態調査の実施、集約
- ・関係機関との連携(子ども家庭支援センター、特別支援教育推進チーム、発達支援センター)
- ・わかば教室・教育相談室・登校支援員（e-ラーニングを含む）との連携
- ・不登校児童・生徒の次の成長につながる居場所作り
- ・その他、登校支援にかかわる資料の作成等

教育資料・広報係より

教育センター・教育資料室のご案内

教育センターの教育資料室は、日野市内幼稚園・小学校・中学校の教員の皆さんが、日頃の教育・指導の充実、教育研究の推進に役立つようにとの目的で設置されています。市民の皆さんも利用することができます。また、教員の皆さんは、市役所内交換便による貸し出しの制度を使ってセンター外で利用することもできます。下記をご覧ください、ぜひご活用いただくようご案内いたします。

- 1 閲覧資料 総資料数 4800点
 - ・教育関係の専門図書資料 国語大辞典などの専門辞典
 - ・各社の教科書（小学校：昭和61年～、中学校：昭和56年～）
 - ・日本教育新聞、内外教育（時事通信、平成13年～）
 - ・初等教育資料（文科省）、中等教育資料（文科省）教育時報（都教育委員会）
 - ・市内小中学校の校内研究集録 郷土教育資料 日野市関係の資料
 - ・AV教材（DVD、CD-ROM、VHSビデオテープ） 他
- 2 閲覧時間 月～金曜、9時～17時
- 3 閲覧場所 教育センター3階図書室 （2階の事務室でお声がけをしてください）
- 4 貸し出し お気軽に教育図書・資料係へご連絡ください。（教員のみ）
- 5 校務支援メール、電話による貸し出しの方法について

①各小中学校図書室のパソコンには、図書館管理システム（探調ツール：指導で通常使われるシステム）の他に、「横断検索システム」というアイコンがあります。

②「横断検索システム」を使いますと、他校の図書だけでなく、教育センターにあるほとんどの教育資料を検索することができます。

③このシステムで確認した必要な資料がありましたら、当センターの教育資料・広報係へ、校務支援メールか、電話で連絡ください。

④貸し出しの図書は交換便でお送りします。なお、交換便では、AV資料などはお送りできませんので、センターにお出でいただくか、ご依頼いただければお届けします。

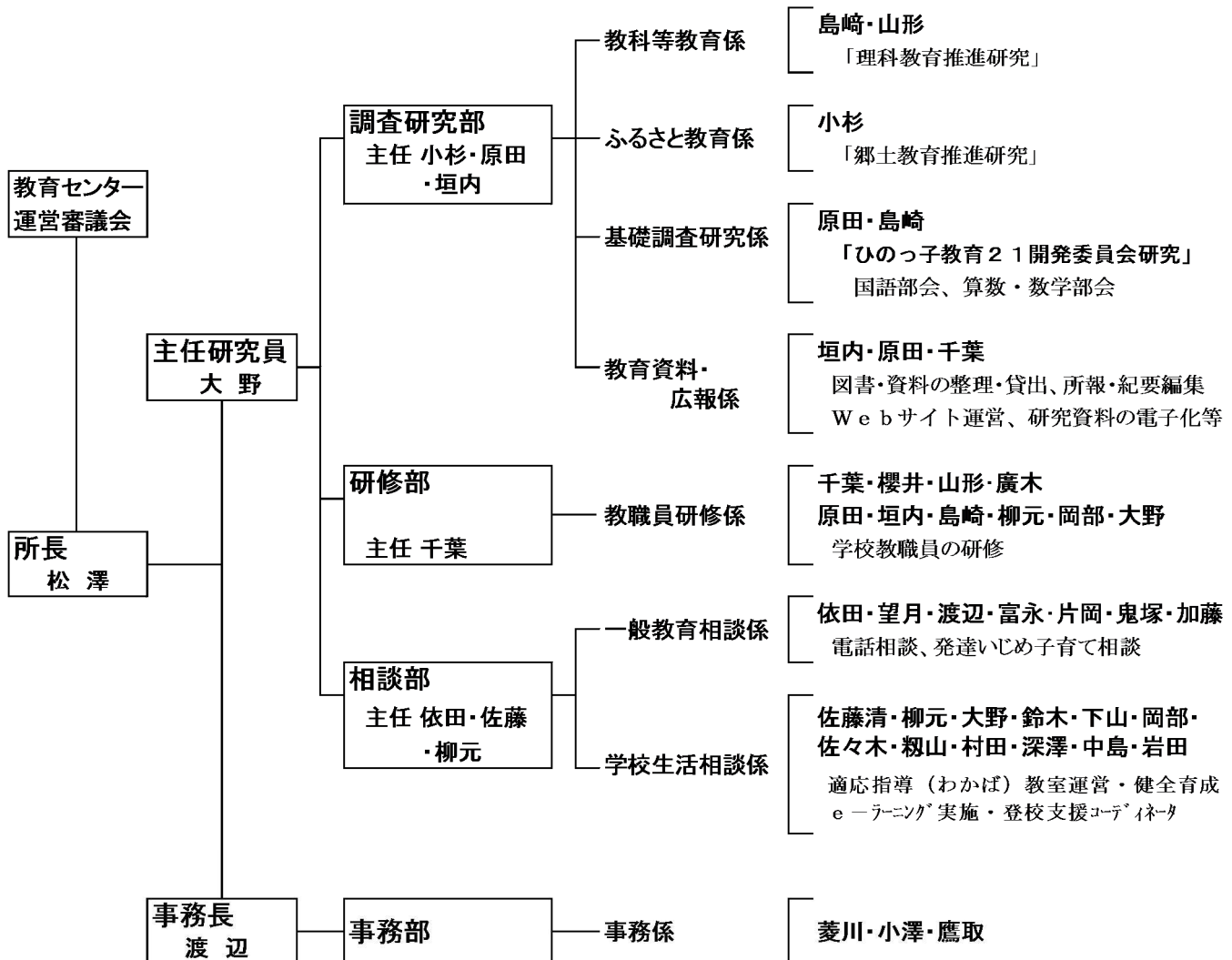


横断検索システムの画

教育センター・広報の刊行物のご案内

- ・教育センター紀要 一年間の調査研究事業、研修部、相談部で行った事業のまとめ
 - ・教育センターだより 日頃のセンター活動の状況についての広報紙。年間3回の発行
- いずれのバックナンバーを、当センターWebサイトでご覧いただくことができます。

平成25年度 教育センター組織図



教育センターWebサイトのご案内

本センターでは、広報活動の一つとしてWebサイトを開設しております。

教育センターの活動の様子を画面上でご覧いただけます。今までの活動の積み重ねをPDFファイルなどで見ることができます。

また、郷土教育を進めるために作成された「郷土教育指導事例」などの冊子も見ることができます。

下記のアクセスの方法から試していただき、教育センターのWebサイトをご覧ください。

- 1 検索サイトから「日野市立教育センター」を検索する。
- 2 「日野市役所」、または「ICT活用教育推進室」のメニューから入る。

○インターネットアドレス（url） www.hino-tky.ed.jp/center/

